

教科	教科の課題 生徒の実態	具体的な授業改善策 補充的、発展的な改善内容	成果・課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項が定着している生徒が多い。 文章の要旨をとらえることが苦手な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を取り入れた課題文や話し合い活動を行う。 教科書や新聞記事を活用し、本文の要約に取り組む学習活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話形を取り入れたことで積極的に発表する生徒が増えた。 長文を読むことに苦手意識がある生徒が多いので、要約に取り組む学習活動を継続して行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業には集中して取り組むことができている。 既習事項の定着や、知識をもとに考えたり表現したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストを実施したり課題に取り組ませたりすることにより、基礎基本の定着を図る。 思考を深めるような問いを立てて、考えさせる授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストに取り組むことで、基本的な用語は身に付いてきた。 調べる力は身に付いてきたので、知識を活用して思考する能力を育てることが課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 授業に前向きに取り組んでいる生徒が多い。 基本的な知識や技能の習得ができている生徒が多い。 数学を活用した問題解決が苦手な傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、生徒が自ら考えて、自力で解決できるような課題を多く取り入れる。 論理的に説明する活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、自ら考えて、自力で解決しようとする姿勢が見られた。 根拠を明確にし、論理的に説明することが課題である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の結果を分析し考察することが苦手な傾向がある。 授業に前向きな生徒が多く、集中して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にレポートの考察を行い、考え方や表現の仕方を指導する。 既習事項に関する課題に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> レポートの書き方が定着してきた生徒が増えた。 応用問題への取組に消極的なことがあるので、授業で定期的に扱っていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 上級生として、下級生の手本になろうとする姿勢がある。 練習に取り組む意欲に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 演奏の達成感を得られるよう授業内容を工夫し、練習への意欲向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の経験を生かし、後輩への伝え方やグループ練習の進め方を工夫できた。 楽器の技能習得で自信をもつまでに至らない理由から、異学年との交流に躊躇することが課題である。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組んでいる。 アイデアを深く練ったり、より良い工夫をしたりすることに課題がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐに作品を完成したと考えるしまう生徒に対しては、参考作品を見せたり、考えるポイントを説明したりして、より良い作品づくりのイメージをもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に声かけをして、少しずつ作業を丁寧に行うということがどういうことか伝えられてきている。良いものをつくったことでの、達成感を味わわせていきたい。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対して意欲的で、安全に留意して取り組んでいる。 男女の体力の差が顕著に表れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女で別の課題を設けるなど、個に応じた指導を心がけ、それぞれの生徒の体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女別に課題を設定したことで、主体的に運動に取り組むことができていた。 男女共習することに苦手意識を抱いている生徒がいる。
技術	<ul style="list-style-type: none"> 授業や実習に意欲的に取り組んでいる。 知識の定着に課題がある生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの活用を充実させる。 プリントをきちんとまとめさせ、提出を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの内容を簡潔にし、わかりやすくしたことにより、学習意欲が高くなった。 同じ課題を反復することで知識の定着ができた。 繊細な作業をすることに苦手意識がある。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容の理解度は高い。 製作において、完成すればよいという考えである生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品鑑賞会で互いの作品を見合うことや、より日常生活で必要性を感じられる物を題材に取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞する時間を設けたことで、他の作品を作ってみようとする実践意欲を引き出すことができた。 製作と鑑賞に積極的に取り組めない生徒が数名いる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 聞くこと、読むこと、書くことについては日々の学習の積み重ねの成果が認められる。 話すことに自信がない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用教材を繰り返し使い、4技能それぞれに特化した活動で定期的に復習の機会を設ける。 日々の話す活動や定期的なパフォーマンステストにより、自信をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に復習の機会を設けた結果、生徒が自主性をもって応用問題に取り組むようになった。 年度当初と比較すると自信をもって話すことができるようになった。